

説教要旨 「分裂をもたらす救い主」

ルカによる福音書 12章 49～53節

「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである」(49節)「あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言っておくが、むしろ分裂だ」(51節) これら言葉は、イエス様に対する私たちのイメージをひっくり返すような言葉ではないでしょうか。イエス様はこの地上に“火”を投じ、分裂をもたらすために来たと言われているのです。

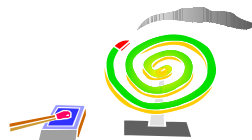
罪に支配され神様に背いている私たちは、神様の怒りの火によって焼き滅ぼされて当然の存在です。しかし、私たちが受けるべき滅びの火を、神の独り子であるイエス様が引き受けてくださり、十字架の上で孤独に、苦しみぬかれて死なれたのです。独り子をこの十字架の苦しみと死のために遣わして下さったところに、私たちに對する神様の深い愛が示されています。この神の愛によって、イエス様が引き受けて下さった神の怒りの火は、私たちに新しい命を与える救いの火となったのです。

この神の火は、私たちの中に分裂と対立とを引き起こします。それは神の火によって焼き尽くされるべき古い自分が、焼き尽くされまいと抵抗して引き起こされる分裂であり、対立です。自分は滅ぼされるようなことはしていない。罪など犯していないんだ。そう言って神の火に焼き尽くされまいと抵抗の末、分裂と対立を味わうのです。

私たちは、出来ることならば、過ちを犯すことなく、罪を犯すことなく、いつも清く正しい者でありたいと願っています。しかし、イエス・キリストの十字架は私たちに「おまえが神の独り子を殺したんだ」と迫って来ます。「おまえは罪人だ」と突きつけられて、素直に認めることができるのでしょうか。

イエス様が投じて下さるこの神の火を受け、その火によって燃やされていくことによってこそ、私たちは、この世界の平和のために本当に貢献していくことができるはずです。

終戦から74年を数えるこの時、「主よ、あなたの火を、私たちの内に投じてください」と、共に祈りたいと思います。



(2019・8・18 説教者：稲垣真実)